学校関係者評価委員会評価結果（令和５年度分）報告書

学 評 委　第 2 号
令和６年６月２０日

一般社団法人秋田市医師会長
秋田市医師会立秋田看護学校長
湊　　元　志　様

学校関係者評価委員会
委　員　庄子公子
委　員　大原樹

令和６年５月２０日付け秋市医看第８０号により依頼のありました令和５年度自己評価結果に対する学校関係者評価について、本委員会の評価結果を取りまとめましたので、秋田市医師会立秋田看護学校学校関係者評価委員会に関する規程第１１条第１項の規定に基づき、下記のとおり報告します。

なお、評価結果の報告については、自己評価項目全般にわたるのではなく、次表に掲げる学校が定めた重点目標に係る評価項目を中心に評価結果を記述しています。

評価項目（大）	重　点　目　標
第１　学校運営	感染症法上の５類移行後も引き続き、新型コロナウイルス感染対策を適切に講じ、学校内の感染拡大を防ぐ。
第４　教育課程経営	教育課程を円滑に運営する。
第５～14　教授、学習及び評価過程	成人の学習者として尊重した授業を展開する。
第15　経営・管理過程	教育環境の改善・整備を図るとともに、教育・学習活動等に関する情報提供を積極的に行う。
第16　入学	受験者を確保する。
第17　国家試験	看護師国家試験の全員合格を維持する。

〔注〕　「第19　地域社会と国際交流」に関する評価は、重点目標以外の項目に対する評価です。

記

1　自己評価大項目「第１　学校運営」

(1) 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが昨年５月に２類から５類に変更されたが、実習先からの要請等に的確に対応しており、実習中に学生が罹患しても補充実習の機会を与えるなど、学生側に不利益が生じないように配慮していることを確認することができた。

(2) 臨床の現場では、既に看護記録などはパソコンに打ち込むようになっており、授業で電子テキストを利用するのは時代の要請に叶っていることである。実習先の病棟にパソコンを持ち込むことはできないもののタブレットの使用が可能であるから、今後はパソコンからタブレットにシフトしていくことも検討していただきたい。

(3) 我々が勤務する病院でも年々採用する看護師が減ってきているので、看護学校でも学生の確保が重要な課題となっていることは想像に難くない。学生の確保の観点では、学校説明会の開催、学生募集用のパンフレット『学校案内』における在学生や卒業生の声の掲載、ホームページ上での学校行事の紹介、パンの出張販売、キッチンカーの来校などは、学校生活の質的向上や受験生に対する宣伝効果が大きいと考えられるので、今後も継続していただきたい。

(4) 令和６年２月に、秋田看護学校は社会人経験のある在学生が厚生労働省から教育訓練給付金を受けられる講座指定（看護学科）を受けたとの説明があったが、既に制度化されている授業料・入学金の減免制度と合わせて積極的にＰＲすることにより、受験生の確保につなげていただきたい。

(5) 県内の看護学校の定員割れについて状況説明があったが、秋田看護学校は秋田市内に存在していて立地条件に恵まれていることから、更なる工夫をすることによりまだ学生確保につながる余地はあると考えられる。

(6) 臨床の現場でも、あと数年で数多くの看護職員が定年のため退職し、人材不足が顕在化してくる筈である。また、新人の退職も多いことから、看護職を育てる秋田看護学校の役割は、ますます大きくなると思われる。

(7) もう少しデジタル化を進めるなどの対策を講じながら、教員全員が効率的に仕事ができる環境づくりを行ったらどうかと考える。

(8) 教員の仕事量、近時求められる健全な労働環境等を考慮すれば、教員の

増員は喫緊の課題であると考える。

2　同「第４　教育課程経営」及び同「第５～14　教授、学習及び評価過程」

(1) 実習先でもＷｉ－Ｆｉ環境を整えている病院が増えてきているので、実習を受ける学生側で積極的に活用した方がいい。

(2) 新教育課程がスタートして３年目となったが、実際に実施してみて分かったこともあるかと思うので、教員全員で話し合い、よりよい内容にしていっていただきたい。

(3) 旧教育課程が適用される学生が数名いるとのことであるが、積極的に支援して卒業できるよう努めていただきたい。

3　同「第15　経営・管理過程」

(1) 令和４年度分の評価結果等を考慮して、現場で使用している新しい実習用ベッドを購入したようであるが、教材備品については今後も計画的に更新していっていただきたい。

(2) 高額な教材備品やエアコンについては、リース又はレンタル契約を利用し、年度間の経費支出の平準化を図っているとのことであるが、今後とも必要に応じてこれらの契約を活用して教育環境の充実を図っていっていただきたい。

(3) 受験生を確保する上で建物の印象は大きい。そのような意味で、講堂の暗幕は暗いイメージをもたらしているので、変えた方がいいのでないかと考える。

(4) 施設見学をしてみると、校舎の老朽化が進んできていることは十分理解でき、近い将来、校舎の建替えが重要な課題になると思われるが、看護師の供給元として県内や市内の医療機関における秋田看護学校の存在は非常に大きいものがあることから、秋田市医師会の単独経営、他校との統合による共同経営など設置母体をどうするかも含めて様々な知恵を絞り、将来にわたり安定的な経営を続けていっていただきたい。

4　同「第16　入学」

(1) 少子化に伴い、我々が勤務する病院でも退職者と新規採用者の数が乖離する現象が起きてきているため、看護職に興味を持った生徒を増やすことが大切と思い、高校生を対象として夏休み中に施設見学や職業体験を実施している。さらに、看護学校と病院とが協働しながらこのような催しを行うことができれば、看護学校入学を希望する学生をより増やすことができ

るのでないかと考える。少子高齢化が秋田市よりも進んでいる地域では、小学生の段階で看護職を体験させている病院もある。

(2) 秋田県医療人材対策室や高等教育支援室でも、看護師になる若者が増えることを期待して看護職を紹介する催しを開き出しているようであるが、より多くの若者の参加を期待するのであれば、看護学校や秋田県看護協会の関係者と事前に協議を行うことにより、もっと看護職の魅力を発信できる機会にしていく必要があると考える。

(3) 進路ガイダンスや学校訪問、ホームページを活用したＰＲ活動などで令和５年度も相当の実績を残していること、６年度入学生のうち３分の１はガイダンス参加者であることなどから一定の評価はできるが、さらに、看護の出前授業を活用するなど積極的な情報の提供に努め、受験生ひいては入学生の確保を図っていただきたい。

(4) ホームページ上で実習病院とリンクできれば、受験生等により必要な情報を提供できると考える。

5　同「第17　国家試験」

(1) 令和５年度卒業生３１人のうち２９人が看護師国家試験に合格したとの報告を受けた。新卒者の合格率、新卒者と既卒者とを合わせた受験者全体の合格率が全国平均並みとのことであったが、６年度以降も引き続きデジタルサービス（テストの配信、学生の学習進捗状況の把握、成績管理及び模試結果分析）を教員全員が活用しながら個別指導等を適切に行って、全員合格を目指していただきたい。

(2) 既卒者も全員が合格できるよう、今まで以上の支援に努めていただきたい。

6　同「第19　地域社会と国際交流」

(1) 少子高齢化が進み、働き手や入学生の減少傾向が続くと思われる中、この項目の評価がほかに比べて低いことが少し気になる。

(2) 秋田県内でも色々な企業で外国人が就業している実態を捉えると、今後、看護職でも外国人を受け入れ、働き手となることもあり得るから、看護学校として少しずつ外国人受け入れの準備をした方がいいのでないかと考える。

7　まとめ

授業の形態など電子化による改善も検討課題だが、最大の問題は入学者の

確保である。講堂の暗幕の改善について触れたが、学校全体で明るい雰囲気づくりを行ってイメージアップを図り、入学者の確保につなげていっていただきたい。

進路ガイダンスや高校訪問、ホームページによる学校紹介などは今までどおり力を入れて取り組んでいただきたい。また、授業料等の減免、教育訓練給付金の交付を受けられる専門学校であることについても、積極的にＰＲしていただきたい。

今後も高い国家試験の合格率を維持し、学生の学習環境や教員の職場環境を良くしながら、看護師養成所としての使命に尽力していただきたい。